



U. S. Steel合併 および 株式分割について

2025年9月29日

コーポレートコミュニケーション部 IR室

宮原 公彦

日本製鉄株式会社

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

この時期にU. S. Steelを買収する理由は3つ

理由①：本投資は当社の海外成長戦略に合致しているから

◆当社の海外成長戦略の概要

需要の伸びが確実に期待できる地域
当社の技術力・商品力を活かせる分野

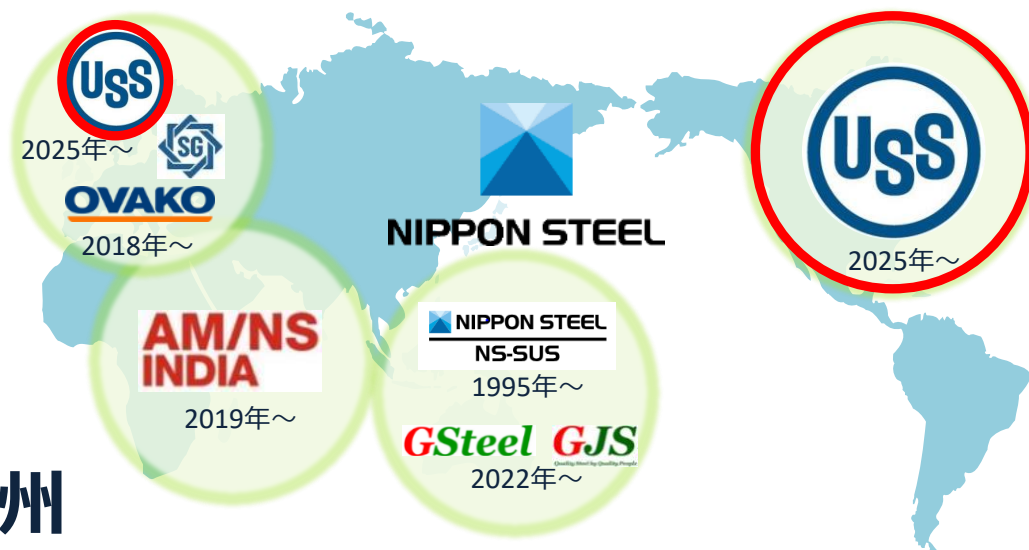
鉄源一貫製造拠点の拡充

M&A／ブラウンフィールドの拠点取得

3つの重点地域

「米国・欧州」「インド」「ASEAN」
において鉄源一貫生産を拡大

- ✓ 成長する **インド**
ハジラー一貫能力拡大、東部新製鉄所建設 等
- ✓ ホームマーケット **ASEAN**
タイ薄板市場シェア拡大 30%→50% 等
- ✓ 高級鋼の最大市場 **米国・欧州**
商品対応力強化によるシェア拡大、新製鉄所建設



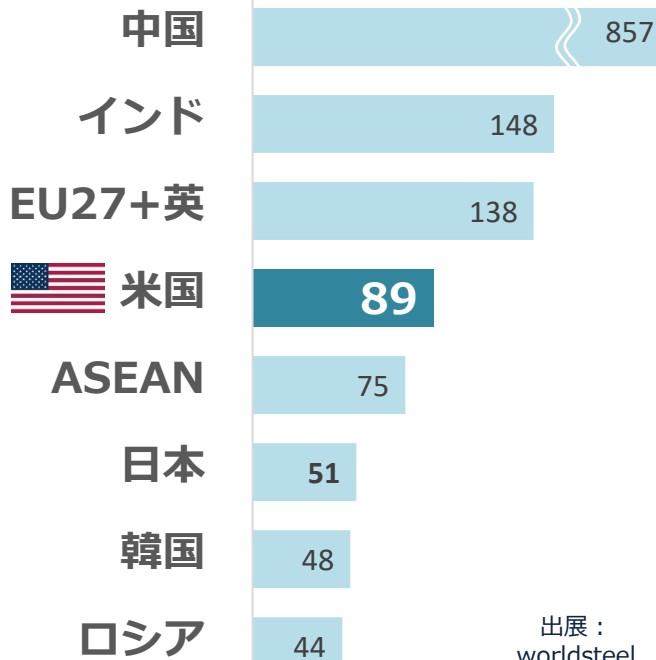
理由②：米国の鉄鋼市場が非常に魅力的だから

1) 先進国で最大の鉄鋼需要かつ
当社の技術力・商品力を活かせる
高級鋼の最大の市場

2) 間接輸入を含めた需要規模は1.5億トン
関税政策により鋼材の直接・間接輸入の
国内生産への転換が想定される

鋼材需要

2024CY (百万t/年)



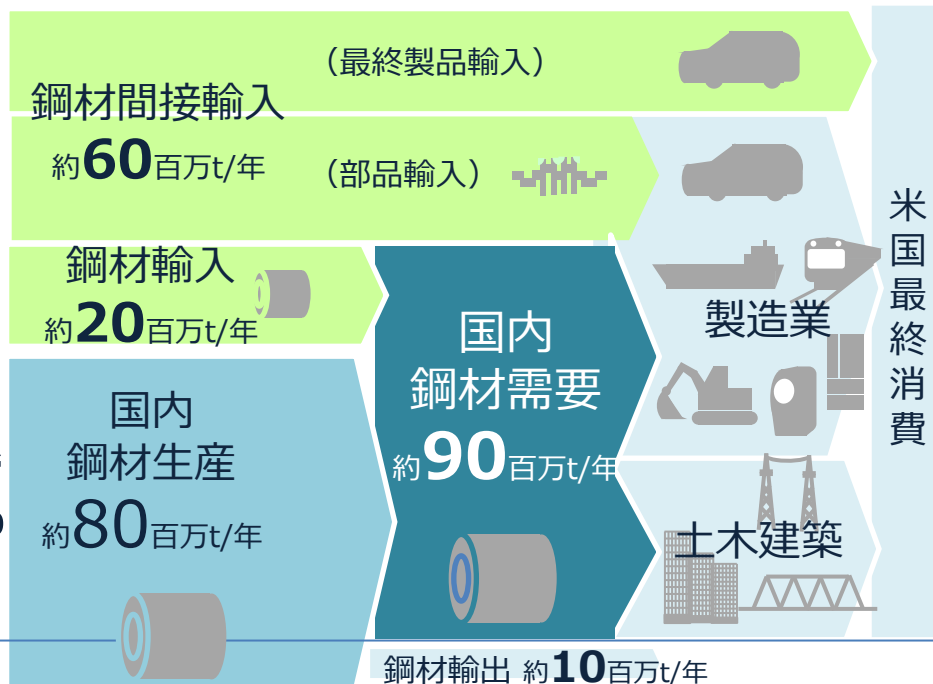
米国市場鋼材総需要
約**150**百万t/年

自給率
約**55%**

出展：
worldsteel

米国鋼材需給イメージ

(当社推定)



3) 米国は鉄鋼市況価格が高い
⇒ 当社技術でのコスト改善により
更なる利益改善が見込まれる

熱延材市況価格	米国	日本	中国	インド
直近3か月平均	\$ 1,004/t	\$ 742/t	\$ 453/t	\$ 615/t
同 1年平均	\$ 845/t	\$ 769/t	\$ 519/t	\$ 651/t
同 3年平均	\$ 912/t	\$ 823/t	\$ 559/t	\$ 684/t

理由③：この時期にU. S. Steelが買い手を募集したから

◆U. S. Steelとの合併契約締結までの経緯

- 2023年7月 米国大手鉄鋼メーカーCleveland CliffsがU. S. Steelに対し合併提案
- 2023年8月 U. S. Steel側はこれを拒否する一方で、戦略的代替案を評価する為の正式な検討プロセスを開始
(複数社からの買収提案を受領)
- 2023年12月 当社がU. S. Steelとの合併について最終合意

この機会を逃せば米国市場へ参入できないかも。。。

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

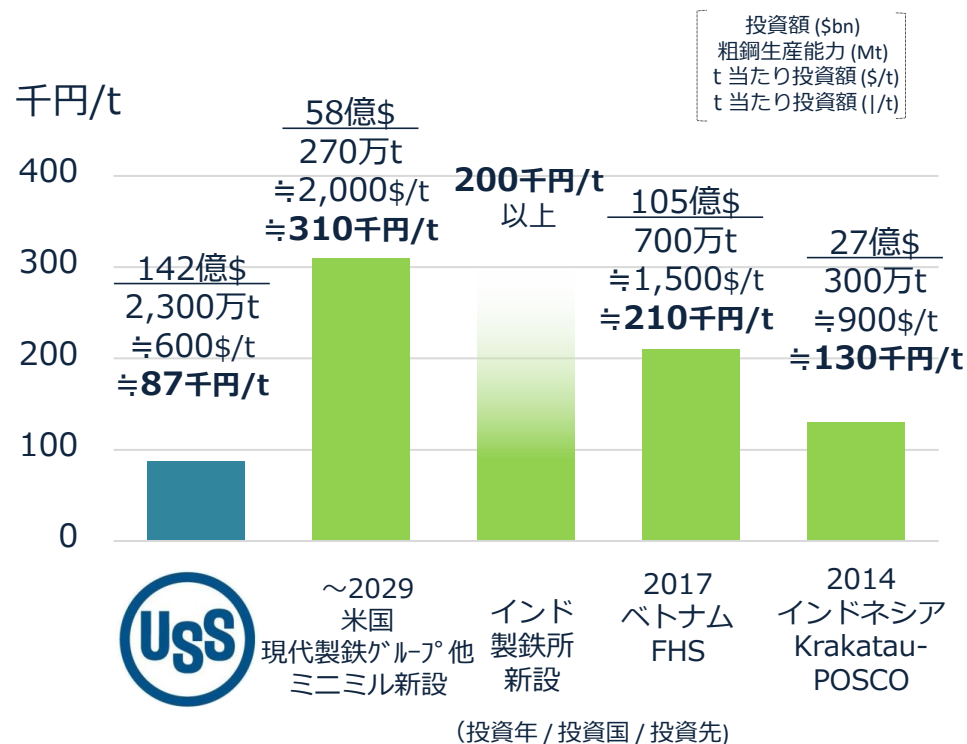
新たに製鉄所を建設せず、既存の会社を取得する理由

⇒ 実は安価。新規建設には多くのリスクが存在

競争力ある取得価額

(経済合理性判断はトランプ政権関税政策以前)

粗鋼生産能力あたり投資額



その他、新規建設のリスク

- 一から建設することによる立ち上げリスク
- 労働者、技術者を新規に雇用できないリスク（そもそも不可能？）

(参考)
日米労働力
人口比較

		総人口 (百万人)	労働力人口 対製造業 (比率)		
	米国	342	172	13	8%
	日本	124	69	11	15%

- 新規に顧客を獲得できないリスク
- 市場の鉄鋼需給を緩和させてしまうリスク
- 安定生産までに時間がかかるリスク
- 建設金額が巨額となるリスク

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

当社経営の自由度が確保されているのか？

⇒ 米政府の権利は、当社の成長のための戦略と矛盾せず

国家安全保障協定（NSA）の 主なコミットメント

米政府に与えた 主な権利

ガバナンス	◆ 取締役会の過半数は米国籍 ◆ 経営陣の中枢メンバーは米国籍	◆ 独立取締役 1 名を選任
設備投資	◆ 2028年末までに約110億 \$ を投資	◆ NSAでコミットされた 設備投資の削減
社名・本社	◆ 本店所在地を維持	◆ 会社名・本店所在地の変更 ◆ 法人登記の米国外移転
米国内 設備・生産	◆ 米国内の生産・能力を維持	◆ 生産・雇用の米国外移転 ◆ 米国既存製造拠点の閉鎖・休止 (通常操業における暫定休止を除く)
その他	◆ U. S. Steelの通商措置に 妨害・禁止・干渉しない	◆ 米国内競争事業の重要な買収、 米国外からの調達、 通商、労働に関する一定事項

米政府の同意が必要

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

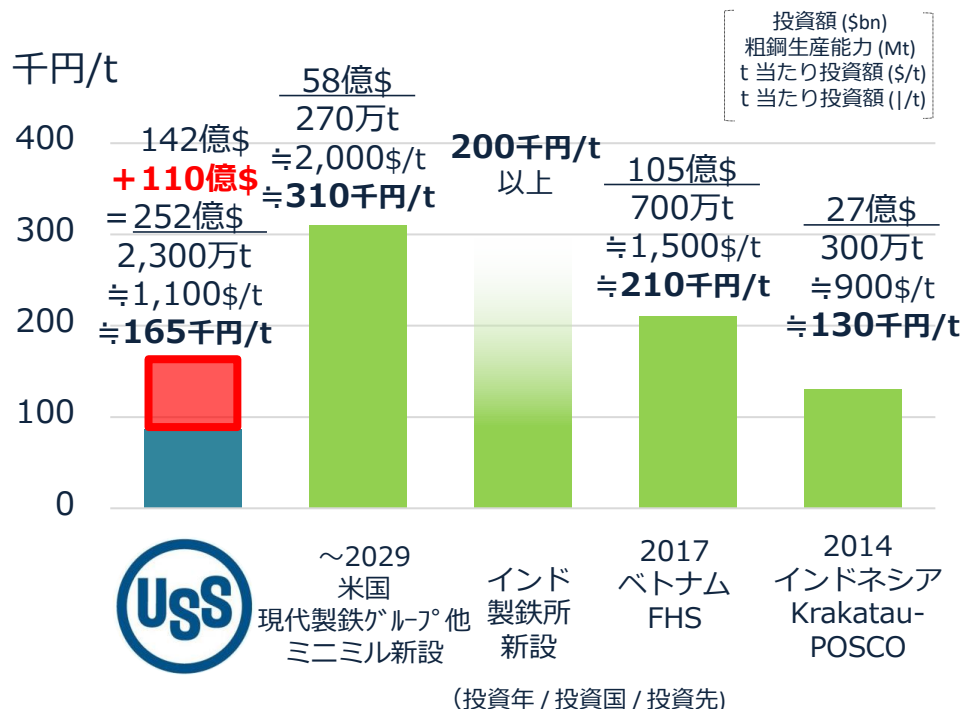
2. 株式分割について

2028年末までに行う追加設備投資（約110億ドル）

⇒ それでも競争力ある取得価額。十分な経済性を確保

追加設備投資を含めても 競争力ある取得価額

粗鋼生産能力あたり投資額
(U. S. Steelは追加設備投資込み)



【追加設備投資約110億ドルについて】

①
ベースの
製造実力
(品質・生産性)
の向上

コスト低減

②
供給製品
メニュー
の拡充
(電磁鋼板等)

注文構成高度化

③
供給能力
の拡大

U. S. Steelの競争力の抜本的強化
利益成長を実現
(十分な投資採算性を確保)

投資採算性判断はトランプ政権関税政策以前

【約110億ドルの設備投資概要】

◆高炉製鉄所（ゲーリー、モンバレー）

- ・モンバレー熱延設備新設
- ・ゲーリー14高炉改修 など

◆電炉一貫製鉄所（Big River Steel）

- ・直接還元鉄（DRI）製造設備新設
- ・電磁鋼板ライン強化

◆研究所新設、ペレットプラント増設 など

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

Q4：設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

(参考) U. S. Steelの強み①

◆最先端の電炉拠点 ～ Big River Steel (アーカンソー州)

Big River Steel



電炉 2基 (330万st/年)
 RH脱ガス設備 1基
 CSP (薄スラブ連続 casting・圧延機(バッチ型))1基
 めっきライン 2ライン (52.5万st/年 + 32.5万st/年)
 無方向性電磁鋼板ライン 1ライン (20.0万st/年)
 塗装ライン 1ライン (16.5万st/年)

Big River 2

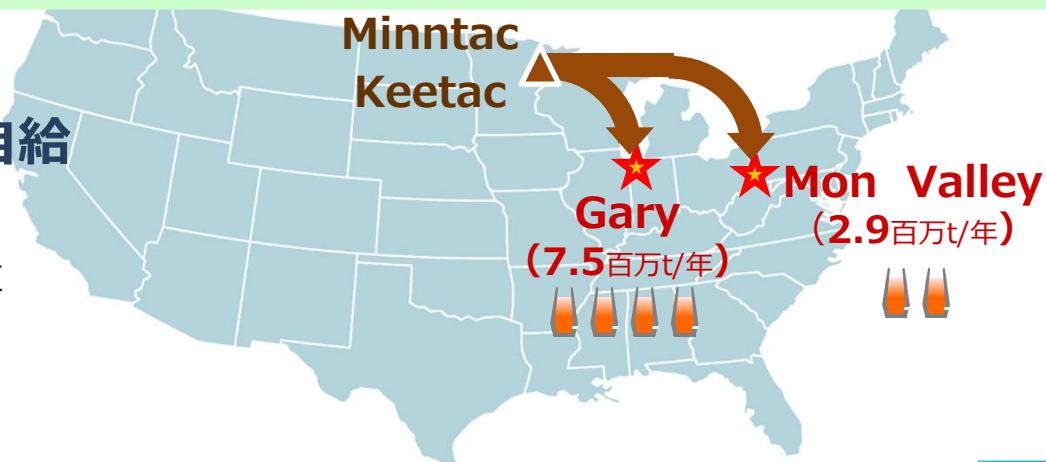


電炉 2基 (能力 300万st/年)
 ESP (薄スラブ連続 casting・圧延機(エンドレス型))1基
 めっきライン 2ライン (能力 100万st/年)
 (2024年下期稼働開始。2026年フル立ち上げ予定)

◆鉄鉱石鉱山の保有 ～ Minntac鉱山・Keetac鉱山 (ミネソタ州)

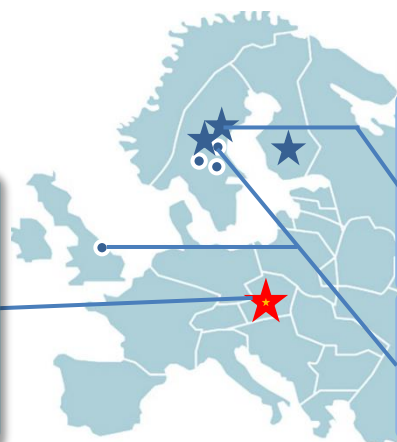
Minntac・Keetac鉱山で 高炉使用鉄鉱石を100%自給

- ・露天掘りの高いコスト競争力
- ・高品位ペレット製造に適した鉄鉱石品位
- ・北米最大のペレット生産能力



(参考) U. S. Steelの強み② (欧州にもグローバルネットワークを拡大)

U. S. Steel Košice <スロバキア>



当社グループ既存拠点

OVAKO



粗鋼生産能力 1百万t/年



従来本格的な事業拠点を
有していなかった
米国・欧州の薄板一貫製造拠点を
一挙に獲得

U. S. Steel Košice 概要

- 中欧最大の鉄鋼メーカー
- 1959年 国営企業「東スロバキア製鉄所 (VSŽ)」として設立
1965年 操業開始
- 粗鋼能力 : 4.5百万トン/年
- 主要設備 : 高炉3基、熱延、冷延、焼鈍、ブリキ、
亜鉛めっき、無方向性電磁 等
- 従業員 : 7,712人 [2024年12月末時点]
- 売上高 : €3.76 billion [2024CY実績]
- 粗鋼生産量 : 3.99百万トン/年 [2024CY実績]
- 販売先 : 自動車、電機、容器、エネルギー、建設、
サービスセンター

U. S. Steel Košice



東日本製鉄所君津地区
(約12百万m² 粗鋼生産能力約1,000万 t)
と同程度の敷地面積

本日のご説明内容

1. U. S. Steel関連

Q1：なぜこの時期にU. S. Steelを買収するの？

Q2：高額で買収するなら自分で米国に製鉄所を作ればよかったのでは？

Q3：黄金株等によって経営の自由度が損なわれる？

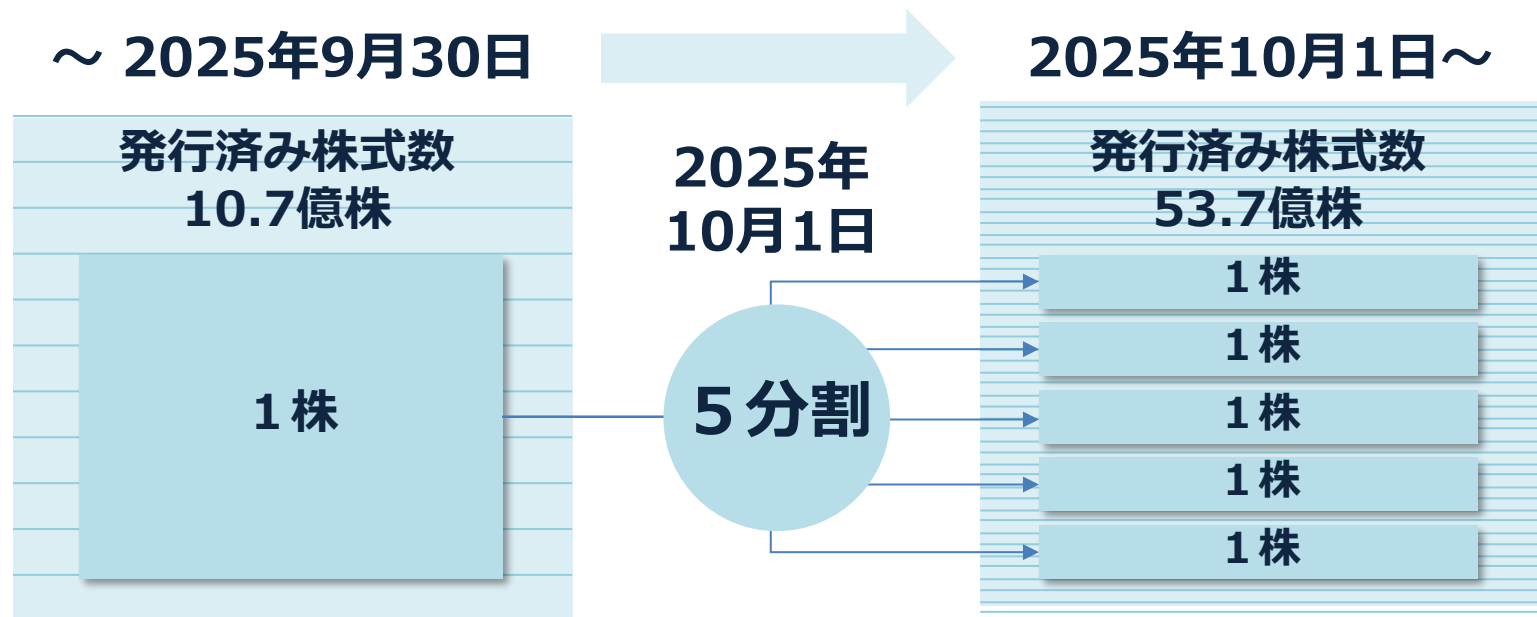
Q4：追加の設備投資110億ドルは高すぎるのでは？

(参考) U. S. Steelの強み

2. 株式分割について

株式分割による投資家層のさらなる拡大

(2025年8月1日公表)



売買単位 = 1 単位 = 100株

株価 = 3,000円/株の場合



少額から売買できるようになり、
投資しやすくなります

600円/株 × 100株 =



今期の配当
について

■ 中間配当 (基準日: 2025年9月30日) : 60円/株 (予定)

× 分割前の株数

■ 期末配当 (基準日: 2026年3月31日) : 従来予定60→12円/株 (予定)

× 分割後の株数



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。